様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２４ 日現在

機関番号：３２４０８
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ２３２７７

研究課題名（和文）ソーシャルメディアを活用した不妊治療を内包する生活の理解と社会的課題の検討

研究課題名（英文）Understanding the Lifestyle and Social Issue with Treatment for Infertility Using Social Media

研究代表者
白土　由佳（Shiratsuchi, Yuka）

文教大学・情報学部・講師

研究者番号：１０７１５８１６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,300,000円

研究成果の概要（和文）：多様な立場に身を置く不妊治療当事者らのリアリティを明らかにするため、ソーシャルメディアのテキスト分析、およびインターネットリサーチを行った。ソーシャルメディアのテキスト分析では、関連するブログ記事、および不妊治療当事者による短文型ソーシャルメディアへの投稿を分析した。インターネットリサーチでは、不妊治療中および不妊治療経験者2,500名に対して不妊治療と仕事やライフスタイルの関係に関する調査を行った。これらの分析を通じて、不妊治療当事者にとって不妊治療における関心や困難は単に治療にとどまらず、生活と切り離すことのできない存在であることを前提に、その内容の多様な方向性を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究を通じて、周縁的アイデンティティを持つ人々のリアリティを理解する端緒としてソーシャルリスニングというアプローチに可能性があることを示した。オンライン上には、不妊治療当事者が匿名や仮名で同じ立場同士でやりとりを行う場が構築されており、かつ、メディア特性に応じてコミュニケーション特性も異なることが明らかとなった。さらに、治療の段階に応じて認識される困難も異なっており、それらは日常生活と密接に絡み合っていることから、短期的および一律の支援から長期的で多様な支援の必要性へ、支援のあり方に示唆が得られた。

研究成果の概要（英文）：To clarify the reality of treatment for infertility patients in various positions, a social media text analysis and Internet research were conducted. For the social media text analysis, we analyzed relevant blog posts and short-form social media posts by treatment for infertility patients. Internet research was conducted on the relationship between treatment for infertility and work/lifestyle among 2,500 people who are undergoing or have undergone infertility treatment. Through these analyses, we showed the various directions of the content of these posts, based on the premise that for treatment for infertility patients, the concerns and difficulties of treatment for infertility are not merely limited to treatment, but are inseparable from their lives.

研究分野：社会学

キーワード：ソーシャルメディア　ソーシャルリスニング　不妊治療

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

今日、結婚・出産に取り組む年齢の上昇と医療技術の向上に伴い、不妊治療の需要は高まっている。不妊の検査や治療経験のある夫婦は、5.5 組に 1 組にも上ると言われている。（国立社会保障・人口問題研究所 2015）。また、厚生労働省による高額医療費の経済的な負担軽減を目指す特定不妊治療支援事業は、2004 年の実施以来、10 年間で支給実績は約 9 倍にも上った（厚生労働省 2017）。このような背景のもと、2022 年には人工授精や体外受精が保険適用されることとなり、研究開始当初から、不妊治療は社会的関心を集める存在であった。

このように不妊治療の社会的需要な高まる一方、治療や出産を行う女性のキャリア継続という観点から見ると、不妊治療それ自体によって就業が阻まれることも少なくなく（乙部 2015）、短期的な治療費の助成にとどまらない支援のあり方について検討が求められている。

不妊治療をとりまく研究は、主として生殖技術としての倫理的側面に関する議論から始まった。その後、医療技術の向上と社会の変化に伴い、不妊治療もより広く社会に一般化する中で、夫婦間の関係性に関する議論（林谷、鈴木 2009）や、治療後の人生設計に関する考察（竹家 2008）などがなされてきた。不妊治療は「出口の見えないトンネル」と称されることもあるほど長期間の治療を要する場合もあり、加えて、その治療方法の特性から日常的な通院が求められることが少なくない。不妊治療当事者の意識研究（白井 2012）や、20 年間を通じた緻密な聞き取りによる研究（竹田 2018）といった質的研究の厚い記述を参照しても、不妊治療の研究において生活という観点と共に検討することは不可欠である。

以上のように、本研究の研究開始当初の背景には、不妊治療に対する需要と関心の高まりという社会的な問題があり、かつ、それに対する政策的アプローチも行われている状況があった。同時に、このような社会状況のもと、学術的側面では不妊治療当事者をとりまくキャリアや家族関係、治療に伴う精神的負担に関する研究など、不妊治療を内包する生活へのアプローチが蓄積されてきた。このような状況のもと、本研究では、今日の社会の情報化を鑑み、仮名や匿名で同じ関心を持つ人同士がコミュニケーションをとることが可能なオンラインメディアに焦点を当てた。

本研究の問いは、女性の社会進出や情報化という特性を持つ現代社会において、日常生活と共にある不妊治療のリアリティとはどのようなものか、である。このリアリティ解明に対し、本研究はソーシャルメディアの膨大なテキストデータを活用した量的研究としてアプローチした。ソーシャルメディアという当事者の生の声を対象に分析を行い、大量のテキストデータに記される生活と不妊治療の多様性を構造化することで、これまで社会科学の分野で蓄積されてきたライフヒストリー研究やインタビュー調査等の質的研究に対し、新たな俯瞰的視座を設けるという立場を目指した。

２．研究の目的

本研究の目的は、不妊治療と生活をテーマとして、多様な立場に身を置く当事者らのリアリティを明らかにすることである。この目的を通じて、不妊治療を内包する生活における困難を示し、様々な支援のあり方について検討する。

３．研究の方法

この目的達成のため、本研究では以下 2 つの分析に取り組んだ。

一つ目は、ソーシャルメディアを通じた言説分析である。不妊治療当事者が日常的に用い、志を同じくする者同士で行われるコミュニケーションの集積を分析することで、不妊治療を内包する日常生活と治療のリアリティの構造化に取り組んだ。当事者らの置かれた立場の多様性を前提とし、実際に治療がどのような形で生活に位置付けられているのかを明らかにした。

二つ目は、インターネットリサーチである。不妊治療を計画中／実施中／終了後の当事者ら 2,500 名を対象にアンケート調査を行い、日常生活との関連から不妊治療についての幅広い支援のあり方を検討した。

４．研究成果

第一に、長文が投稿されるソーシャルメディアであるブログの言説分析から、当事者が不妊治療をどのように捉え、語っているかを明らかにした。分析対象として、不妊治療をテーマに執筆されるブログ記事 123,918 件を選定した。記事に付与されるハッシュタグの類型化とテキスト分析を通じて、記事は治療の段階ごとにハッシュタグが付与され、ブログのプラットフォーム上では「不妊治療」と 1 つのカテゴリとして扱われていても、その中では治療段階などで内容が細分化し、同様の治療や考えを持つユーザ同士でコミュニケーションが行われていることが示された。言い換えると、不妊治療は治療段階やアプローチに加え、当事者の置かれた状況を前提に説明される必要があり、個別具体的に限定された個々人の不妊治療についての取り組みが数多く存在し、それらがハッシュタグを通じて同じ状況の人へと届けられていることが示唆された。さらに、顕微授精をはじめとする高額な医療費を必要とする治療については、自らの経験を詳細

に記録として残すことで同じ治療に取り組む人への情報提供を行うという側面があり、やりとりなどの直接的なコミュニケーションが介在しない相手の存在が見受けられた。研究成果は白土「当事者の語りに見る不妊治療を内包する生活の特徴」(2019) として『Precision Medicine』誌に寄稿している。

第二に、短文投稿型ソーシャルメディアの言説分析から、不妊治療を行なっている当事者同士のコミュニケーションが生活にどのように位置付けられているかを分析した。短文投稿型ソーシャルメディアのプロフィールをデータとして、ユーザを人工授精中／体外受精中／その他の 3 類型に大別し、それぞれのユーザ群の特徴を明らかにした。3 類型に共通の傾向として、同じ治療に取り組む者同士でのコミュニケーションには、日々の挨拶に加え、治療報告に対する励ましが多く見受けられた。不妊治療は一般に終わりが明確に示されないことから治療結果の精神面への影響も指摘されているが、同じ治療に取り組む同士という稀有な相手との励まし合いが日常に溶け込んでいる様子があり、ソーシャルメディアが周縁的アイデンティティを持つユーザにとって日常を支えるメディアとして機能しているという役割が指摘できる。また、医師とのやりとりや体質改善など治療以外での悩みについても活発に議論されている。ここでも似た治療段階同士でのコミュニケーションが重要であり、同じ当事者、同じ治療をする者同士による互助関係が示された。研究成果については、白土ほか「Twitter に見る不妊治療当事者のリアリティとメディアとしての役割の検討」(2021) として学会にて報告している。同データを別アプローチから分析すると、Olshansky (1988) によって整理されている不妊治療当事者の抱える心理的課題と概ね同様の内容がソーシャルメディアへの投稿にも見られる傾向にあった一方で、金銭面での困難に関する言説はあまり多く見受けられなかった。例え仮名や匿名でオンラインに限定されたコミュニケーションであっても、共に過ごした日々が親密性を与えることに起因するか、この点についてはインタビューなど他の調査方法との比較を通じて検討していきたい。研究成果については、白土「ソーシャルメディアを活用した不妊治療を内包する生活の理解」(2023) として『精神科』に寄稿している。

第二に、不妊治療を計画中／実施中／終了後の当事者ら 2,500 名を対象にしたアンケート調査を通じて、日常生活を継続する中で不妊治療に対し求める支援を明らかにした。金銭面においては保険適用や助成金による支援、キャリア形成においては仕事を辞めざるを得なかった状況に対する葛藤が見られ、先行研究を補強する結果となっている。加えて、それ以外に求める支援として最も多く見受けられたのは「周囲の理解」である。不妊治療は治療段階や当事者の置かれた状況によって千差万別であることから、周囲の理解が得られにくい。このような状況は、当事者に向けた直接的な支援の制度ばかりが充実しても実際の制度利用に繋がりにくい原因の一つとなりうるだろう。

第三に、分析アプローチの敷衍が挙げられる。本研究の全体像を事例として、新たな社会調査のアプローチであるソーシャルメディア言説分析はいかにして可能となるか、学会部会にて講演を行った（白土「社会調査としてのソーシャルリスニング-不妊治療当事者の言説分析を事例として-」2021)。また、本研究テーマを含むいくつかのソーシャルメディア言説分析を対象として、分析プロセスのフレームワーク化を試みた。研究成果は、白土「ソーシャルリスニングのフレームワーク SGUR (サグール) の提案と実践」として『CIEC 春季カンファレンス論文集』(2021) に掲載された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 白土由佳	４．巻 12
２．論文標題 ソーシャルリスニングのフレームワークSGUR（サグール）の提案と実践	５．発行年 2021年
３．雑誌名 CIEC春季カンファレンス論文集	６．最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 白土由佳	４．巻 2
２．論文標題 当事者の語りに見る不妊治療を内包する生活の特徴	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Precision medicine	６．最初と最後の頁 34-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 白土由佳	４．巻 42
２．論文標題 ソーシャルメディアを活用した不妊治療を内包する生活の理解	５．発行年 2023年
３．雑誌名 精神科	６．最初と最後の頁 651-657
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 白土由佳
２．発表標題 社会調査としてのソーシャルリスニング-不妊治療当事者の言説分析を事例として-
３．学会等名 国際公共経済学会次世代研究部会・サマースクール（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 白土由佳
２．発表標題 Twitterに見る不妊治療当事者のリアリティとメディアとしての役割の検討
３．学会等名 2021年度社会情報学会(SSI) 学会大会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関